

滋賀県育成水稻品種

「秋 の 詩」

平成21年(2009年) 6 月

滋賀県農業技術振興センター

1 「秋の詩」の特徴

玄米は千粒重が大きく、外観品質が優れ、県内主要品種の中で、1等米比率は最も高くなっています（表1、図1）。

「コシヒカリ」と同等以上の極良食味で、食味ランキング(2008穀物検定協会)では、「コシヒカリ」より上の「A」評価を得ています（表2）。

収量は、「キヌヒカリ」より1割程度多収です（表1、図2）。

出穂期、成熟期は「日本晴」より3日程度遅い中生の晩熟期です（表1）。

【留意点】

- 長稈のため、やや倒伏しやすい。
- いもち病に弱い。

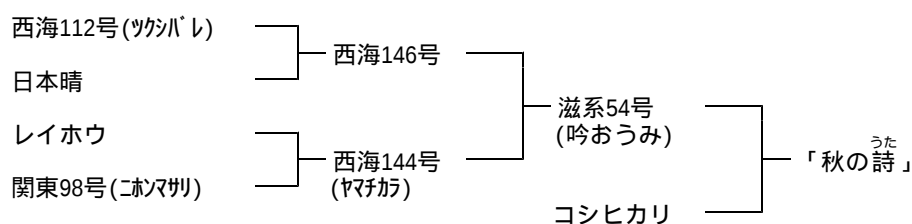
表1 品種特性

		秋の詩	比)日本晴	参)コシヒカリ	参)キヌヒカリ
出穂期		8月10日	8月8日	7月25日	7月27日
成熟期		9月15日	9月11日	8月28日	8月31日
稈長(cm)		88.8	80.8	90.9	78.9
穂長(cm)		19.6	19.3	18.2	17.6
穂数(本/m ²)		413	406	405	391
精玄米重(kg/a)		62.9	58.4	56.1	55.6
玄米千粒重(g)		23.2	22.5	21.2	21.6
耐倒伏性		中弱	中	弱	強
穂発芽性		難	中	難	中易
耐病性	葉いもち	弱	中	弱	中弱
	穂いもち	弱	中	弱	中弱
	紋枯病	中	中	中	中
	白葉枯病	中	中強	中	中弱

農業技術振興センター奨励品種決定調査2004～2008(5年間の平均値
5月10日移植、中苗

「秋の詩」の来歴

1990年に「吟おうみ」を母、「コシヒカリ」を父として人工交配を行い、その後代から育成した品種。1998年に「秋の詩」と命名された。



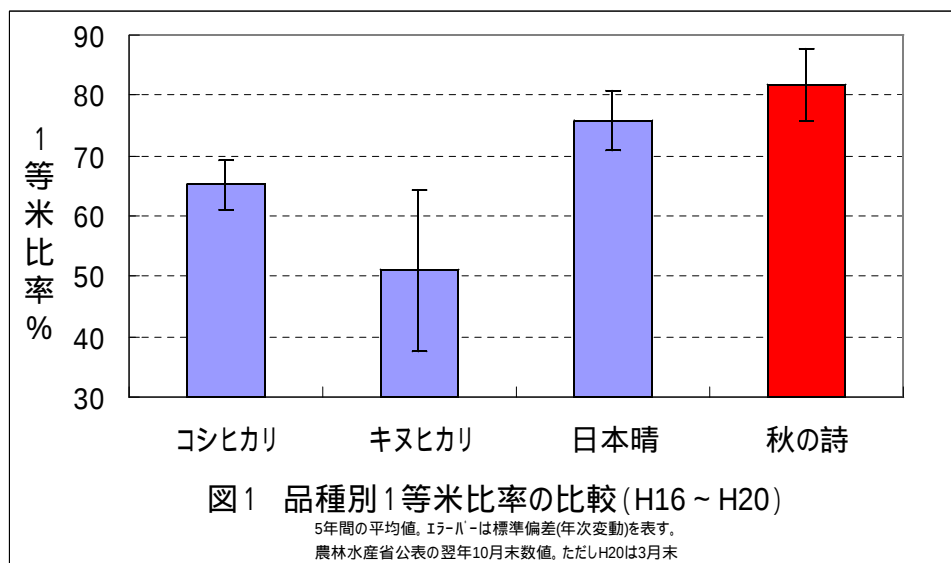


表2 食味ランキング(平成20年産)

地 区	品 種 名	ランク
滋賀 湖南	秋 の 詩	A
滋賀 湖北	コシヒカリ	A'

(財)日本穀物検定協会

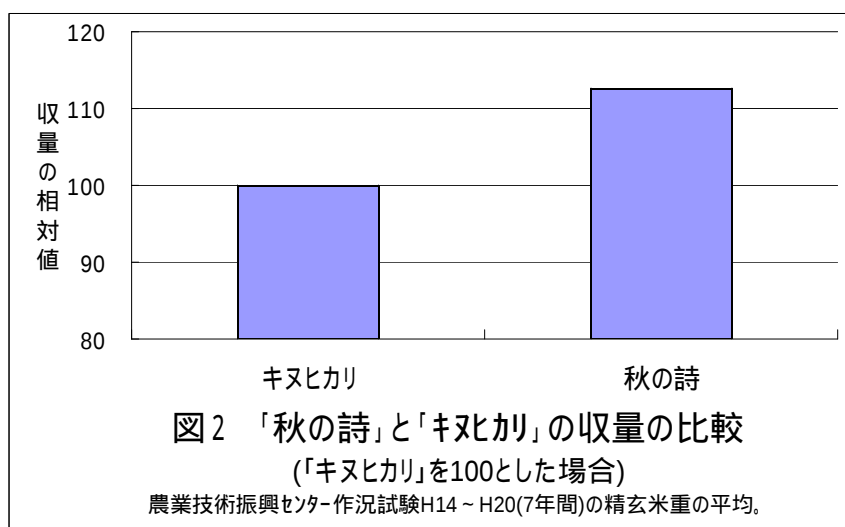


表3 枝梗数および着粒数の比較(滋賀農試1996～1998)

品 種 名	平均穂着粒数		二次枝梗 着粒率(%)
	穂あたり	m ² あたり	
秋 の 詩	76	31,400	41
日 本 晴	72	29,000	48

2 栽培のポイント

ポイント1 穂肥は、出穂25日前と18日前の2回均等分施(2kg×2回)を基本とする。

ポイント2 いもち病に弱いので、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」に準じた防除を行う。

(1) 収量構成要素の目安

目標収量 570kg/10a				
穂数 ×	一穂粒数 ×	登熟歩合 ×	千粒重	
420本/m ²	75粒	80～85%	23.0g	
m ² 当たり粒数：31,500粒				

(2) 栽培適地

- 県内平坦部に広く適する。
- いもち病に弱いので常発地は避ける。
- 倒伏の心配があるので、大豆跡や野菜跡での栽培には注意する。

(3) 育苗

- 発芽が遅いので、播種前には十分に浸種・催芽を行う。

(4) 病虫害防除

- いもち病に弱いので、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」に準じた防除を行う。

(5) 施肥

施肥基準

表4 「秋の詩」の施肥基準

(kgN/10a)

		基 肥	追肥 (6/20頃)	穂肥 (25日前)	穂肥 (18日前)	総 量
全層	速効性	2～3	2	2	2	8～9
側条	緩効性	4	-	2	2	8

注) 緩効性：基肥に緩効度中の肥効調節型肥料を用いる。

穂肥に緩効性肥料を用いる場合は、出穂25日前に4kg施用する。

基肥、追肥

- 倒伏しないよう施肥基準を超えないようにする。
- 大豆跡や野菜跡では、基肥は施用せず、追肥は生育を見て施用する。

穂肥

- 穂肥は、出穂25日前と18日前の2回均等分施（2 kg × 2回）を基本とする。
→収量、千粒重を向上させるため（表6）
- 1回目穂肥施用時（幼穂形成期：出穂25日前）の葉色の目安は4.0。
生育に応じて施用時期を変える（表5）。

表5 生育に応じた穂肥の施用

幼穂形成期頃の生育		生育に応じた穂肥施用
葉色 ()内は葉緑素計数値	株張り	
濃い 4.0 (36)以上	大	2～3日遅らせる
薄い 4.0 (36)以下	小	2～3日早める

表6 穂肥の施用法と精玄米重、千粒重

試験年次	場所	施肥体系 Nkg/10a (基肥-追肥-穂肥(-25)-穂肥(-18))	精玄米重 kg/a	千粒重 g
2008	近江八幡市	3.2(側条) - 0 - 3 - 1	56.7	24.7
		3.2(側条) - 0 - 2 - 2	60.3	25.0
1998	場内	3.0(全層) - 2 - 4 - 0	66.9	23.2
		3.0(全層) - 2 - 2 - 2	70.6	23.5
1998	彦根市	3.6(側条) - 0 - 4 - 0	50.2	22.9
		3.6(側条) - 0 - 2 - 2	53.4	23.7

農業技術振興センター1998,2008「秋の詩」 2008は基肥はオール有機、穂肥はハーブ有機、1998は化成肥料。

(6) 胴割粒の発生防止

- 出穂前後各3週間の常時湛水、早期落水防止（収穫5日前まで落水しない）、
および適期収穫の実践により、胴割粒の発生を防止する。